

## 平成23年度病害虫発生予報第10号

長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
きゅうり	べと病	やや多	やや多
	うどんこ病	並	並
	褐斑病	並	並
	菌核病	やや少	やや少
	灰色かび病	やや少	やや少
	ミナミキイロアザミウマ	並	並
	コナジラミ類	並	並
トマト	黄化葉巻病	並	並
	灰色かび病	並	並
	コナジラミ類	並	並
たまねぎ	白色疫病	並	並
	ネギアザミウマ	やや多	やや多
いちご (本圃)	うどんこ病	並	並
	灰色かび病	並	並
	アブラムシ類	やや多	やや多
	ハダニ類	やや多	やや多
ブロッコリー	黒腐病	やや多	やや多
	べと病	並	並
	コナガ	並	並

【発生予報】 本文の( )内は平年値

## きゅうり

## 1. べと病

## (1) 予報内容

発生程度 やや多

## (2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は1.4%(2.3%)、発生圃場率は58.3%(29.1%)であった。

## (3) 防除上注意すべき事項

ア 病勢が進行すると防除困難となるため、早期発見・早期防除に努める。

イ ハウス内では換気に注意し、多湿を避ける。

ウ 樹勢が弱ると発生しやすいので、肥料切れにならないよう肥培管理に注意する。

## 2. うどんこ病

## (1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は1.3%(3.8%)、発生圃場率は25.0%(43.1%)であった。

3. 褐斑病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は1.1%(2.4%)、発生圃場率は41.7%(35.8%)であった。

4. 菌核病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率4.2%)。

5. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率1.0%)。

6. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は0.1%(0.2%)、発生圃場率は8.3%(11.1%)であった。

7. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は0.4%(0.9%)、発生圃場率は25.0%(23.7%)であった。

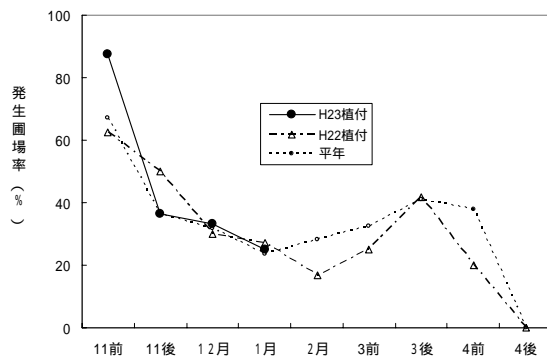


図1 キュウリコナジラミ類 発生圃場率の推移(巡回調査)

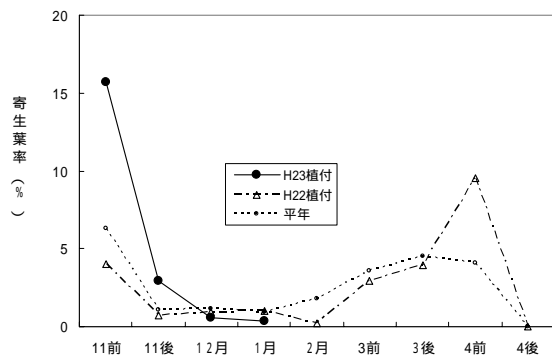


図2 キュウリコナジラミ類 寄生葉率の推移(巡回調査)

## トマト

### 1. 黄化葉巻病

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病株率は0.3%(過去7カ年平均0.4%)、発生圃場率は33.3%(同22.6%)であった。

### 2. 灰色かび病

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率1.0%)。

### 3. コナジラミ類

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は0.2%(寄生株率0.6%)、発生圃場率は16.7%(19.8%)であった。

## たまねぎ

### 1. 白色疫病

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(15筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.0%、発生圃場率0.8%)。

### 2. ネギアザミウマ

#### (1) 予報内容

発生程度 やや多

#### (2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(15筆)の結果、寄生株率は16.3%(8.4%)、発生圃場率は73.3%(42.8%)であった。

#### (3) 防除上注意すべき事項

薬剤がかかりにくい葉と葉の隙間に寄生しているので、薬剤は丁寧に散布する。

## いちご

### 1. うどんこ病

#### (1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病株率は0.2%(0.3%)、発生圃場率は7.4%(8.4%)であった。果実では発病果率は0.0%(0.0%)、発生圃場率は3.7%(4.6%)であった。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病果率は0.0%(0.0%)、発生圃場率は3.7%(4.2%)であった。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は1.6%(0.7%)、発生圃場率は11.1%(10.4%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 花のがくに寄生しやすいので、発生初期に防除を行う。
- イ 薬剤のかけむらがあると防除効果が低下するので、葉裏まで十分に散布する。

4. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は5.4%(3.7%)、発生圃場率は48.1%(33.7%)であった。

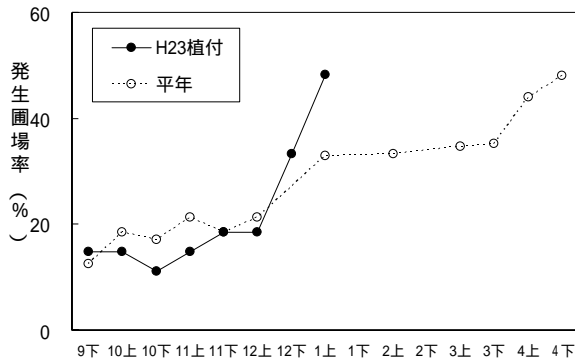


図 いちごハダニ類 発生圃場率の推移

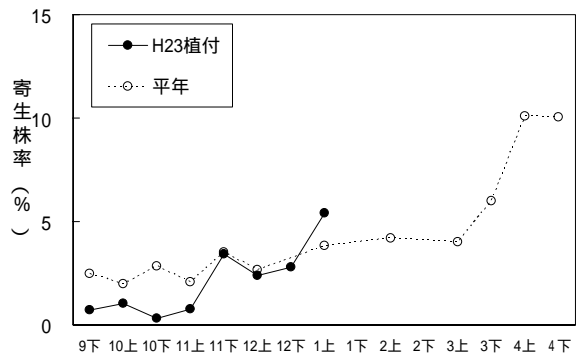


図 いちごハダニ類 寄生株率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 密度が高くなると防除が困難となるので、発生初期の防除を徹底する。
- イ 葉裏に多く寄生するので、薬剤散布は下葉かき等古葉の整理を行なった後、薬液が葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。
- ウ 薬剤感受性が低下しやすいので、同一薬剤は連用しない。
- エ 天敵(チリカブリダニ等)を使用している圃場は、発生状況に応じて天敵に影響の少ない殺ダニ剤を活用する。

ブロッコリー

1. 黒腐病

( 1 ) 予報内容

発生程度 やや多

( 2 ) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査( 10筆 )の結果、発病株率は3.8%( 過去4ヵ年平均0.0% )、発生圃場率は20.0%( 同2.1% )であり、一部発生の多い地域が認められた。

( 3 ) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤散布は予防的に実施し初期感染を防ぐ。害虫の食害痕等からも病原菌が侵入するので、害虫防除も徹底する。

イ 発生の多い圃場では発蕾までに防除を徹底する。

## 2 . べと病

( 1 ) 予報内容

発生程度 並

( 2 ) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査( 10筆 )の結果、発生を認めなかった( 過去4ヵ年平均発病株率0.9%、発生圃場率2.1% )。

## 3 . コナガ

( 1 ) 予報内容

発生程度 並

( 2 ) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査( 10筆 )の結果、寄生株率は2.4%( 過去4ヵ年平均2.5% )、発生圃場率は10.0%( 同18.8% )であった。

【参考】

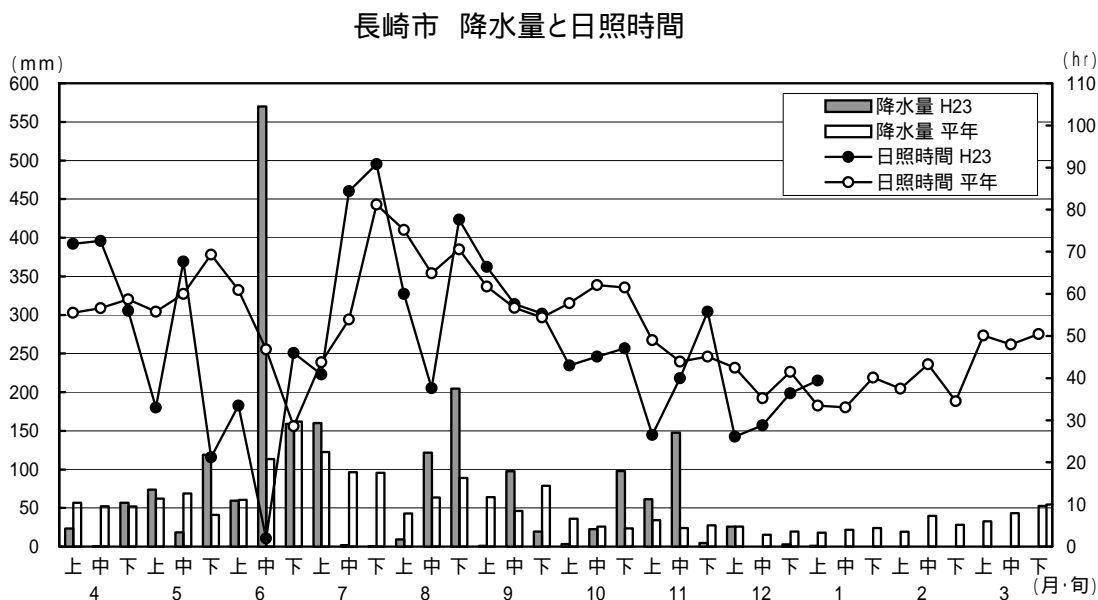
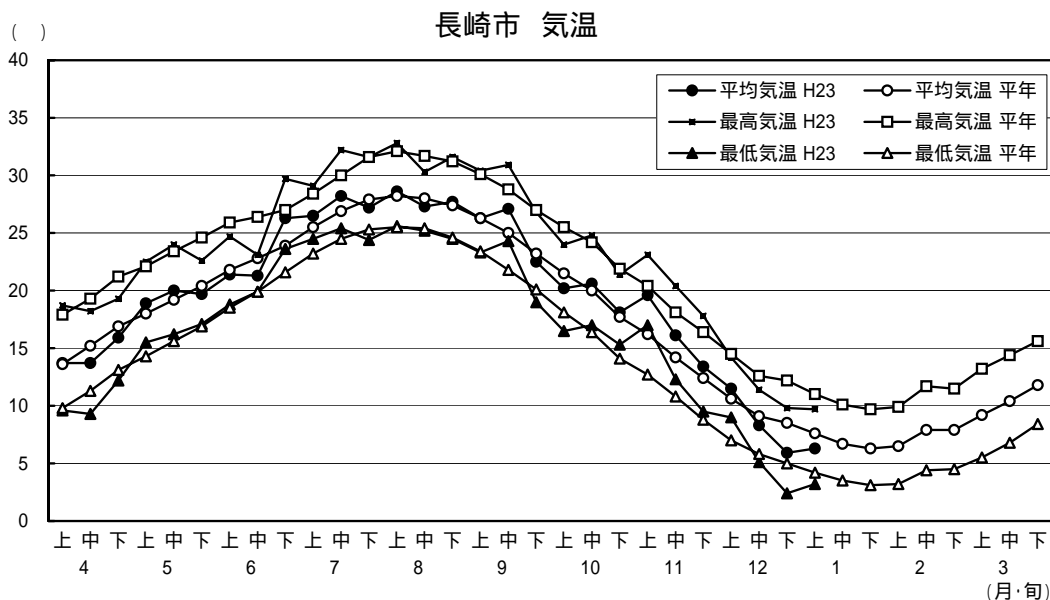
気象 (平成24年1月13日発表 1か月予報 福岡管区気象台)

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	40	40	20
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

予報対象地域：九州北部地域

平成23年度の気象経過



病虫害防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせ

長崎県病虫害防除所 TEL：0957-26-0027